

堺のプロモーションを万博会場で実施します ーポルトガルパビリオンとの連携ー

堺市では、大阪・関西万博を契機として海外パビリオンと連携し、国内外への堺の魅力発信に取り組んでいます。

このたび、公式参加国であるポルトガル共和国と連携し、ポルトガルパビリオンにて、両者の歴史的・文化的なつながりを紹介するパネルや鉄砲レプリカの展示等、堺のプロモーションを実施します。

1 日時 令和 7 年 8 月 13 日（水） 午前 9 時～午後 7 時 30 分

2 場所 大阪・関西万博 ポルトガルパビリオン内 多目的エリア（大阪市此花区夢洲）

3 内容 ・堺とポルトガルとの歴史的・文化的なつながりを紹介するパネルの展示

・鉄砲レプリカ、堺打刃物等の展示

・堺 PR 動画の上映

・堺観光や世界遺産百舌鳥・古市古墳群の PR

・来場者に金平糖（※）をプレゼント

※大阪糖菓株式会社（コンペイトウミュージアム）から、1850 年産のマデイラワインを使った金平糖（1851 年は世界初の万博が開催された年）及びこども向けの金平糖を提供していただきます。



鉄砲



堺打刃物



金平糖

4 申込 事前申込不要

5 ポルトガルパビリオンの概要（ポルトガルパビリオンより）

日本の建築家、隈研吾氏による設計のポルトガルパビリオンは、人類と海との深い関係性を探求する場として、ポルトガルの海洋遺産、科学的革新、そして海洋の持続可能性への取組を紹介します。

海洋の動きのダイナミズムは、パビリオンの「脱構築」によって表現され、吊り下げられたロープやリサイクルされた網を使用することで、より永続的な効果を生み出し、太陽や風といった自然の要素にさらされながら、要素のリズミカルな増殖によって達成されています。

展示のストーリーは、大阪・関西万博へのポルトガルの参加テーマである「海洋、青の対話」、そして持続可能な開発目標（SDGs）へのポルトガルの取組、特に SDGs7（誰もが使えるクリーンエネルギー）と SDGs14（海の豊かさを守ろう）の相互関係に基づいています。この提案の中心には、「海と共に歩んできた過去、現在、そして未来を持つ国」というコンセプトがあります。

大阪・関西万博でポルトガルは、海洋との歴史的な関係がどのように共通の持続可能な未来を促すことができるのかを考えるよう世界に呼びかけます。

展示エリアのほか、ポルトガルパビリオンにはショップ、ポルトガルの美食を紹介するレストラン、さまざまなイベントを開催できる多目的スペースがあります。



ポルトガルパビリオン（©AICEP）

6 本市とポルトガルとの関わり

国際交易により栄えた中世の堺は、ポルトガルから伝わった鉄砲の一大生産地としても知られ、タバコ包丁や堺打刃物に受け継がれた鉄の加工技術は自転車産業へとつながりました。また、ポルトガル人の宣教師ロドリゲスの著書『日本教会史』には堺の茶の湯文化（chanoyu, suki, xichu no sankio など）が詳細に記録されています。さらに、昭和45年（1970年）に開催された日本万国博覧会（大阪万博）のポルトガルパビリオンに出展されていたジョルジ・ヴィエイラ作の彫刻《東と西の接点》が万博終了後に寄贈されました。この作品は、現在、本市のザビエル公園（戎公園）内に設置され、ポルトガルとの歴史的なつながりを伝えています。



ジョルジ・ヴィエイラ作《東と西の接点》

問い合わせ先	担当課：文化観光局 文化国際部 国際課 電話：072-222-7343 ファックス：072-228-7900
--------	--